

紅蓮属

名前	解説
オンモラキ	鳥の姿をした日本の妖怪。 人面で気味悪い鳴き声をあげ、 口から火を吐くこともあるという。 その正体は供養を受けていない屍で、 勤行を怠る僧侶の前に現れるという。
エンク	口から火を吐く餓鬼の一種。 仏教六道の餓鬼道に住んでいる。 飛んでくる虫をその火で焼いては 食べているが、自らの果てしない飢えは 満たされることがない。
ウコバク	ベルゼブブ配下の地獄の下級悪魔の1体。 ベルゼブブの命により、地獄の釜に 油を注ぎ込んで火をたきつけている。 また地獄に落ちた人間を苦しめる為、 燃え盛る石炭をくべるという。
ジャックランタン	イングランドに伝わる鬼火の姿をした精霊。 生前に墮落した生涯を送った者の魂が 死後の世界への立ち入りを拒まれ、 さまよっている姿だとされる。
オルトロス	ギリシャ神話において、 世界の果ての島に棲む怪物ゲリュオンの 牧場を守護した双頭の巨犬。 非常に優秀な番犬であったが、 英雄ヘラクレスが12の難事を行う中で 一撃の下に殺されてしまう。
オシチ	伝承に伝わる、江戸時代に火刑に処された 八百屋の娘お七の霊。 大火がきっかけで出会い惚れた男に 再会したい一心で、商家に火を放つが 捕えられ、火あぶりの刑となる。
サティ	インド神話において、 シヴァの最初の妃となった女神。 父親ダクシャとシヴァとの確執により 炎に身をくべて非業の死を遂げるが、 後に転生してパールヴァティとなる。
ドゥン	インド神話に登場する、 女神ドゥルガーを乗せて走る聖なる虎。 アスラ族の王マヒシャを討伐するために 生まれてきたドゥルガーに、 神々が授けた贈り物の一つとされる。
ソロネ	神学に基づく天使のヒエラルキーにおいて、 第3位「座天使」に数えられる上級天使。 名は「車輪」を意味し、 神の玉座を運ぶ者とされる。
ケルベロス	ギリシャ神話における、 暗黒の大穴タルタロスの番犬。 蛇の尾を持つ勇猛な巨犬だという。 風の巨人ティホンを父、 蛇神エキドナを母にもつ、 オルトロスの兄にあたる。

ムスッペル	<p>北欧神話に登場する炎の巨人。          炎に包まれた国ムスッペルヘイムに住んでいるとされる。          人間とも神々とも干渉を持たないが、世界の終わりラグナロクでは人間の世界に攻めあがるといふ。</p>
ヴリトラ	<p>インド神話の凶暴な巨大龍。          その名は「障害物」を意味し、天空の川を塞ぎ止め干ばつをもたらす。          雷神インドラに倒され地上は潤うが、ヴリトラは次の年、再び復活する。          この二者の戦いは永遠に続くといふ。</p>
ヒノカグツチ	<p>日本記紀神話の火の神。          イザナギ神とイザナミ神の間に生まれるが、イザナミ神は出産の際、焼け死んでしまう。          悲しみ怒ったイザナギ神は十拳剣でヒノカグツチを斬り殺してしまう。          その血や体からは多数の神が生まれた。</p>
マダ	<p>インド神話の巨大なアスラ。          仙人チャヴァナが炎から作り出した。          名前は「酩酊者」を意味する。          敵対者を一飲みにする力を持ち、インドラ神すらもその怖ろしさに屈したと伝えられる。</p>
ベリアル	<p>ソロモン王の72柱の魔神の1体。          50の軍団を率いる大いなる王。          火の戦車に乗ったふたりの美しい天子の姿で召喚者の前に現れるといふ。</p>
アスラおう	<p>インドのアスラ族を統べる、大王であるマハーヴィローシャナ。          仏教では大日如来として知られる。          炎と光の神であり、宇宙をあまねく照らし出し、万物を善き者へと育む力を有しているとされる。</p>
ルシファー	<p>イスラエルの堕ちた光の大天使。          かつては神に次ぐ地位にあった存在で、その名は「明けの明星」を意味する。          自らが神に成り代われるというおごりから多くの天使を率い反逆を起こすが、神の軍勢に討たれ地獄へ落とされた。</p>